



ほっしんじ

# 発心寺本堂改修

## 1 発心寺の歴史と本堂の改修

福井県小浜市伏原に寺域を定める曹洞宗の靈松山発心寺は、大永元年(1521)に若狭守護・武田元光によって創建されたと伝える。元光が居城を構えた後瀬山の東麓に境内があり、ここは元光の別業の地で、晩年はこの地に居住したとされる。武田氏の衰退に伴って荒廃したが京極高次により慶長年中(1596-1615)に再建され、近世以降は禅道場として栄えたと伝える。

南北に長い境内中央に南面して建つ本堂は主材を檜とし、正面(桁行)約20m、側面(梁行)約15mの一重の寄棟造棧瓦葺で、正面に唐破風屋根の向拝を持つ。内部は間口を3分、奥行を2分した六間を中心として周囲に縁を回す方丈形式の平面である。右に元庫裏であった2間を含んで一体とした屋根を持つため、向拝は正面中央より左に位置する。建立年代は不明であるが近世に遡り、鬼瓦に残された銘の明治12年(1879)に現在の屋根形態となり、向拝や外部の改造も合わせて行われたと考えられる。小屋を見ると、元の大断面の梁・桁材の上に、近代らしい束と貫を多用した小屋組が屋根を支えている。また内部も改造が多く、内陣周りもこの時に現在の形態になったと思われる。

約6年前に本堂改修の相談を受け、新築と改修を検討し、現存する木造本堂の良さが理解されて今回の改修工事が始まった。繰り返された改造で脆弱になった部分を建築当初の構造形式に戻すことでも検討しながら耐震補強を行い、外観等は現在の屋根形態となった明治前期の姿を本山永平寺の同時代の建物に範を取って実施している。(高嶋猛)

## 2 BIMによる伝統工法建物の改修設計

近年、BIMと呼ばれる立体設計の技術が進歩し、建築設計は次のステージに本格的に移行しつつある。コンピューターの中に実際に建築する建物を3Dモデルとして作成することで、全体から詳細までを正確に把握することができる。この技術は、最新の建物だけに有効なのではない。

伝統建築を從来の図面だけで理解するためには、それ相当の経験が必要であるが、立体化されたモデルを自由に見ることが可能になると、経験の少ない人でも取り組みやすい。最近の「リノベ」と呼ばれる古建築改修の中には、理解不足で建物にとどめを刺すような改修も多々見られる。

長く伝えられてきた建物から、建てた人・維持補修に関わってきた人などの、先人の意図を理解し、お預かりした建物をきちんと改修して次の世代にお渡しするというあたりまえのことが、現代の経済と時間の感覚のなかでは難しくなってきた。新しい技術がそのことに光を当てようとしている。(山田健太郎)

